

第 158 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2007 年 10 月 25 日(木) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 森 克栄 氏 (森歯科医院院長 米国歯内療法学会終身会員)

タイトル: 包括歯科医療における歯内療法

近年、社会保険医療制度が変わって、治療にかかる前に、書面にて治療の方針を明示提出し患者のインフォームドコンセントを得てから、治療を始めることが制度化された。これを面倒な事、厄介な事と毛嫌いする声を耳にするが、これを逆に発想をして術者の力試しだと思えば、楽しい事ではないか、又、患者の信頼度や IQ を調べるよい機会だと考えられ、むしろ、よい制度ではないだろうか。日頃の研鑽度を試す良い自己反省にならないだろうか？

今回は、私の体験を通じて、具体的に症例を供覧して、解説しながら話をすすめ、集団思考し大いに討論しながら、ご出席の皆さんと問題解決の糸口を見つけてみたいと願っています。

例えば、歯冠が著しく崩壊している患歯を戦略的に抜歯するか、保存処置をするかの治療計画を立てる際、予後安定という要素を含めて考えると、更に多岐な方法が出てくる。

戦略的に抜歯をしてしまえば一時的には事足りるが、一口腔単位の視点に立つと、ぜひ保存したいと思うのが人情である。症例が複雑な場合は、専門医に相談したり、依頼したりすることも多くなる。いよいよ治療を始めると、予期せぬ出来事が発生したり、専門的な技術だけに頼りすぎ、新たな問題が生じる事もある。

またできるだけ最小限の侵襲 (Minimal intervention) の視点から患者自身の生活設計や時間的な制約問題とも考え合わせると、妥協的な方法も加味されなければならない事もある。

包括的な歯科診療の立場から、更に医療判断学的な視点からも、一般歯科診療に携わる者として、判断に迷った症例を提示しながら集団思考を試みたい。

そして Comprehensive Dental Care の Tactics and / or Technique についても論じてみたい。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 宇田川 信之